

### 三番茶を摘採しない茶園のせん定法の確立

二番茶摘採後に毎年せん枝を行う体系では、7月中旬に浅刈り(-5cm)更新し、初回整枝を浅刈り位置で行い、秋整枝をその5cm げで整枝する枝条管理体系が一番茶収量は最も多い。

農業研究センター 茶業研究所(担当者:入江 慎二)

### 研究のねらい

病虫害の発生を抑制すること等を目的として、毎年二番茶摘採後にせん枝を行う場合があるが、そのような茶園におけるせん枝時期、深さ、またその後の枝条管理が翌年の収量、品質に与える影響について検討し、二番茶摘採後に毎年せん枝を行う体系での枝条管理法を確立する。

### 研究の成果

1. 6月下旬浅刈り(-5cm)は百芽重が重く芽数が少ない芽重型、7月中旬浅刈り(-5cm)は百芽重が軽く芽数が多い芽数型となり、6月下旬深刈り(-10cm)はその中間型となる。初回整枝の高さでは、0cm が+3cm に比べて百芽重が軽く、芽数が多い。秋整枝の高さでは、+5cm が+3cm に比べて百芽重が重く、芽数が少ない(表1)。
2. 一番茶の収量は、7月中旬浅刈り(-5cm)が多く、初回整枝高さでは0cm が+3cm に比べて多く、秋整枝高さでは+5cm が+3cm に比べて多い(図1、2、3)。
3. 二番茶摘採後に毎年せん枝を行う体系では、7月中旬に浅刈り(-5cm)更新し、初回整枝を浅刈り位置で行い、秋整枝をその5cm 上げで整枝をする枝条管理体系が、一番茶収量は最も多い。

### 普及上の留意点

1. 二番茶摘採が7月上旬までに終了する地域を対象とする。

表1 試験区の構成、一番茶の芽数・収量及び品質評価(2000～2002平均)

区	せん枝 時期・深さ	初回整枝 8月 上旬	秋整枝 10月 下旬	芽数 (本/枠) (20cm枠)	百芽重 (g)	生葉収量 (g/m <sup>2</sup> )	NF値	官能審査
1区	6月下旬(-5cm)	0cm	+3cm	95	48.6	765	0.241	95
2区	" "	0	+5	75	54.3	675	0.233	92
3区	" "	+3	+3	67	63.1	616	0.248	96
4区	" "	+3	+5	55	68.0	692	0.231	94
5区	" (-10cm)	0	+3	86	41.3	666	0.254	96
6区	" "	0	+5	84	52.4	732	0.276	94
7区	" "	+3	+3	95	46.3	625	0.271	95
8区	" "	+3	+5	70	63.5	747	0.243	94
9区	7月中旬(-5cm)	0	+3	106	46.0	802	0.237	92
10区	" "	0	+5	88	61.9	855	0.203	94
11区	" "	+3	+3	71	54.7	676	0.238	93
12区	" "	+3	+5	84	63.3	698	0.199	93

せん枝の深さは二番茶摘採面から、初回整枝はせん枝位置から、秋整枝は初回整枝位置からの高さ。一・二番茶の摘採はそれぞれ+1cm。NF値は近赤分析値の全窒素の値を繊維の値で割った数値。官能審査は形状・色沢・香気・水色・滋味各20点の合計100点満点。

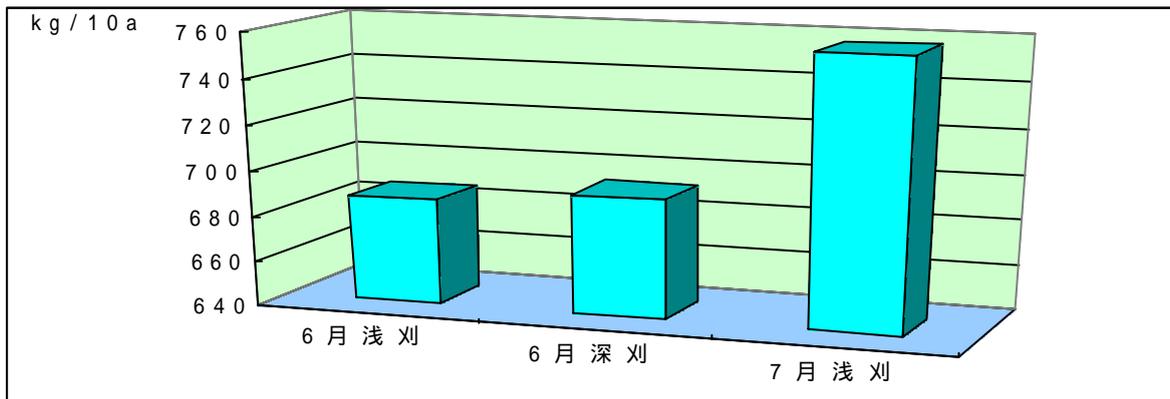


図1 更新時期別収量の違い

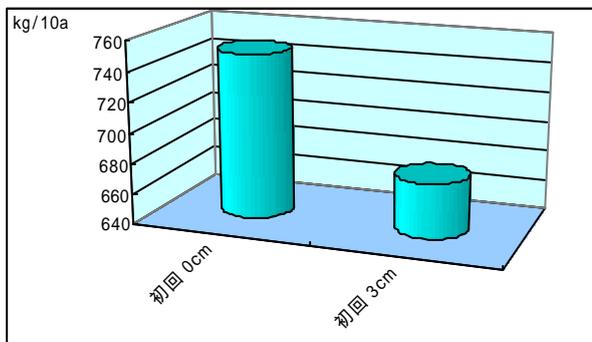


図2 初回整枝高別収量の違い

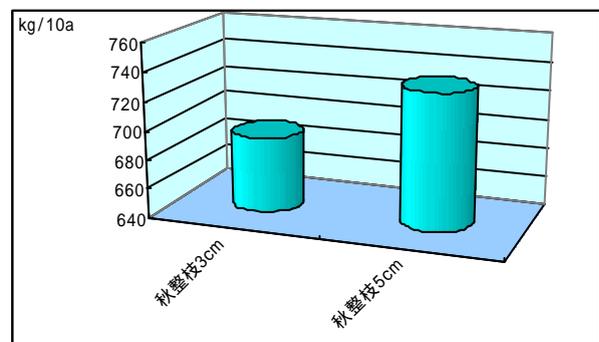


図3 秋整枝高別収量の違い